

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 中央 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

#### 教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

#### 生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

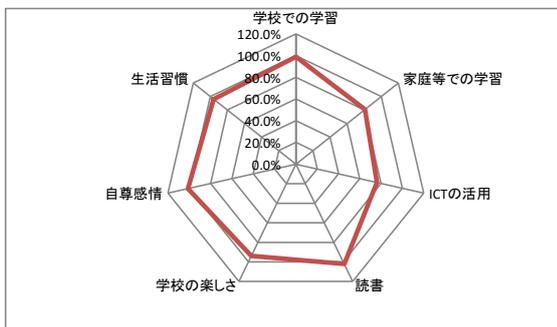
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的な傾向は、全国の傾向に準じている。「知識・技能」に関する問題はおおむね全国平均と同等である。記述式の問題に課題がみられる。工夫して話す問題、解釈して記述する問題は無回答率が高いことが課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	問題番号4ー 行書の特徴を理解する問題	
	努力が必要な問題	問題番号3ー 表現の技法について理解する問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	「データの活用」に関しては正答率が全国平均を上回る一方、「数と式」は全国平均を下回っている。説明を要する問題に関して、正答率は全国平均とほぼ同程度であるが、無回答率は全国平均を大きく上回っていることが課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	問題番号8(1) 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題	
	努力が必要な問題	問題番号6(3) 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見出し、説明する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギー」「地球」を柱とする領域は全国平均を上回っている。記述式の問題の無回答率が全国平均を上回っていることが課題である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よってきた問題	問題番号1(2) モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	問題番号8(3) 未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかをみる	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での学習、生活習慣、自尊感情は全国平均と同水準である。</li> <li>・ICTに関しては、「勉強の役に立つ」と考えている生徒は多いものの、実際の活用場面が少ない傾向がある。</li> <li>・学校での学習は概ねよく取り組んでいるが、家庭等での学習習慣が定着していないことがわかる。</li> <li>・以上のことから、今年度より導入しているAIDリルを積極的に活用し、ICTの活用とともに、家庭学習の習慣を定着させる方策とする。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

各教科共通の取組として、基本的な知識・技能の更なる定着のために、AIDリルを活用してドリル学習を促す。また、授業中に自分の考えを深めたり、自分と他者の意見を交流したりする際もタブレットを活用し、より多くの意見に触れることができるようにする。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

就寝・起床時間などは定着している生徒が多く、基本的な学習習慣は定着していると考えられる。家庭・地域での過ごし方に関しては、生徒への声掛けや、通信などで発信していく。また、中学校の定期考査期間に合わせて、小学校でも「家庭学習チャレンジ週間」を設定し、小中が同時期に、より家庭学習に取り組む姿勢の強化を図ることができるようにする。